

Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール

ご使用にあたって



Part No. 821-3652-10
2010 年 10 月、Revision A

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは, Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は, Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し, SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

- 1. 一般情報 1
 - サポートされるモジュラーコンポーネント 1
 - サーバーモジュールのファームウェア 2
 - ファームウェア更新 2
 - SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に必須のファームウェアのアップグレード 2
 - サーバーモジュールのファームウェア 3
 - BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コード 3
 - オペレーティングシステム 4
 - オペレーティングシステムの参照情報 5
 - マニュアル、サポート、およびトレーニング 6
 - ドキュメントのフィードバック 6
- 2. 最新情報 7
 - ハードウェアの既知の問題 8
 - ILOM の既知の問題 9
 - 仮想マシンソフトウェアの既知の問題 10
 - Oracle Solaris の既知の問題 12
 - Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の問題 13
 - Windows の既知の問題 14

第1章

一般情報

この章では、次の項目について説明します。

- [1 ページの「サポートされるモジュラーコンポーネント」](#)
- [2 ページの「サーバーモジュールのファームウェア」](#)
- [4 ページの「オペレーティングシステム」](#)
- [5 ページの「オペレーティングシステムの参照情報」](#)
- [6 ページの「マニュアル、サポート、およびトレーニング」](#)
- [6 ページの「ドキュメントのフィードバック」](#)

サポートされるモジュラーコンポーネント

次の表に、このサーバーモジュールでサポートされるモジュラーコンポーネントの一覧を示します。

コンポーネントの種類	モデル番号 – 製品名
RAID 拡張モジュール (REM)	SG-SAS6-R-REM-Z – Sun Storage 6 Gb SAS REM RAID HBA
ファブリック拡張モジュール (FEM)	4871A-Z-N – 10GbE Dual Port FEM

サーバーモジュールのファームウェア

このセクションでは、サーバーモジュールにインストール済みのファームウェアについて説明します。

ファームウェア更新

最新の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) と BIOS ファームウェアは、サーバーモジュールにインストールされた状態で出荷されています。このファームウェアを再インストールする場合やアップデート版が必要な場合は、次の Web サイトからサーバーモジュール用ファームウェアを入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/netrax6270m2>

SAS-1 および SAS-2 コンポーネントの併用時に 必須のファームウェアのアップグレード

SAS-1 コンポーネント (SAS-1 NEM およびディスクモジュール) のファームウェアを、SAS-1 と SAS-2 の共存をサポートするバージョンにアップグレードする必要があります。

このアップグレードは、SAS-2 コンポーネントをシャーシに挿入する前に行ってください。

SAS-1 NEM および Sun Blade 6000 ディスクモジュールのすべての SAS エクスパンドを、少なくともファームウェアバージョン 5.04.03 (またはそれ以降) にアップグレードする必要があります。ファームウェアをこのバージョンにすると、モジュラーシステムシャーシで SAS-1 デバイスと SAS-2 デバイスの共存が可能になります。ファームウェアのバージョンが古い場合、SAS-2 デバイスがハングアップすることがあります。

アップグレードが必要なデバイス、ファームウェアの入手方法、アップグレードの実行方法については、『SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide』(821-1800) を参照してください。このマニュアルは、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/nt6270.m2.srvrmod?l=en#hic>

サーバーモジュールのファームウェア

次の表に、Software Release 1.0 でサポートされる ILOM および BIOS のファームウェアバージョンを示します。

表 1-1 Software Release 1.0 で利用可能なファームウェア

Software Release	ILOM サービスプロセッサ (SP) ファームウェア	ILOM シャーシ管理モジュール (CMM) ファームウェア	NX6270 M2 サーバーモジュール用 BIOS ファームウェア
1.0	3.0.9.15.h r58375	SW 3.2.2 以降	BIOS 08.01.04.05

BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コード

次の表に、Software Release 1.0 用の BIOS ファームウェアイメージで使用される Intel Microcode と参照コードのバージョンを示します。

表 1-2 Software Release 1.0 用の BIOS ファームウェアで使用される Intel Microcode と参照コード

Intel ソフトウェア	バージョン
Intel CPU Microcode	SRV_C_87
Intel RC	p2.70
Intel CPU 参照コード	1.06
Intel QuickPath Interconnect (QPI) 参照コード	1.85
Intel メモリー参照コード (MRC)	2.11

オペレーティングシステム

Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュールは、次のオペレーティングシステムをサポートします。

- Oracle Enterprise Linux 5.4 (64 ビット)
- Oracle VM 2.2.1
- Oracle Solaris 10 10/09 OS 以降
- Microsoft Windows Server 2008 SP2 Datacenter (64 ビット、Hyper-V 使用権付き)
- Microsoft Windows Server 2008 SP2 Enterprise (64 ビット、Hyper-V 使用権付き)
- Microsoft Windows Server 2008 SP2 Standard (64 ビット、Hyper-V 使用権付き)
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter (64 ビット、Hyper-V 使用権付き)
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise (64 ビット、Hyper-V 使用権付き)
- Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard (64 ビット、Hyper-V 使用権付き)
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.4 (64 ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP3 (64 ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 (64 ビット)
- VMware ESX および ESXi 4.0 Update 1

上記のオペレーティングシステムのインストール手順については、『*Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール Linux*、仮想マシンソフトウェア、および *Oracle Solaris* オペレーティングシステムインストールガイド』(821-3657) を参照してください。

注 – Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムは、サーバーのディスクドライブにプリインストール済みのオプションとして用意されています。インストール済みの Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムの設定手順については、『*Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール設置マニュアル*』(821-3653) を参照してください。

オペレーティングシステムの参照情報

次の表に、OS に関する参照情報の一覧を示します。

OS	関連情報
インストール済みのオペレーティングシステム	ドキュメント – 『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール設置マニュアル』 (821-3653) 追加情報 – http://www.sun.com/software/preinstall パッチ – http://sunsolve.sun.com ツールとドライバ – http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp
Oracle Solaris OS	ドキュメント – 『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』 (821-3657) 追加情報 – http://www.sun.com/software/solaris パッチ – http://sunsolve.sun.com ツールとドライバ – http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp
Oracle VM	ドキュメント – 『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』 (821-3657) 追加情報 – http://www.oracle.com/virtualization パッチ – http://www.oracle.com/virtualization ツールとドライバ – http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp
VMware	ドキュメント – 『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』 (821-3657) 追加情報 – http://www.vmware.com パッチ – http://downloads.vmware.com ツールとドライバ – http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp
Windows	ドキュメント – 『Sun Installation Assistant 2.3 Through 2.4 User's Guide for x64 Systems』 (821-0694) および 『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』 (821-3662) 追加情報 – http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp および http://www.sun.com/servers/blades/os.jsp パッチ – http://update.microsoft.com ツールとドライバ – ファームウェアの更新やドライバのインストールを自動的に行うには Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を使用
Linux	ドキュメント – 『Sun Installation Assistant 2.3 Through 2.4 User's Guide for x64 Systems』 (821-0694) および 『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール Linux、仮想マシンソフトウェア、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』 (821-3657) 追加情報 – http://www.sun.com/systemmanagement/sia.jsp および http://www.sun.com/servers/blades/os.jsp パッチ – Redhat: https://www.redhat.com/apps/download , SUSE: http://download.novell.com/index.jsp ツールとドライバ – ファームウェアの更新やドライバのインストールを自動的に行うには Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) を使用

マニュアル、サポート、およびトレーニング

次の Web サイトでは追加リソースが提供されています。

- マニュアル <http://docs.sun.com/>
- サポート <http://www.sun.com/support/>
- トレーニング <http://www.sun.com/training/>

ドキュメントのフィードバック

コメントは、<http://docs.sun.com> で「Feedback[+]」リンクをクリックしてお送りください。ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュールご使用にあたって』、Part No. 821-3652-10。

第2章

最新情報

この章では、Oracle の Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュールに関する最新の情報と問題について説明します。

各問題は、サービス要員の参照用に提供されている、内部の変更要求 (Change Request, CR) 番号と関連付けられています。必要に応じて、サービス要員は CR 番号を参照し、問題に関する追加情報を入手できます。

次の各項目について最新情報を提供します。

- [8 ページの「ハードウェアの既知の問題」](#)
- [9 ページの「ILOM の既知の問題」](#)
- [10 ページの「仮想マシンソフトウェアの既知の問題」](#)
- [12 ページの「Oracle Solaris の既知の問題」](#)
- [13 ページの「Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の問題」](#)
- [14 ページの「Windows の既知の問題」](#)

ハードウェアの既知の問題

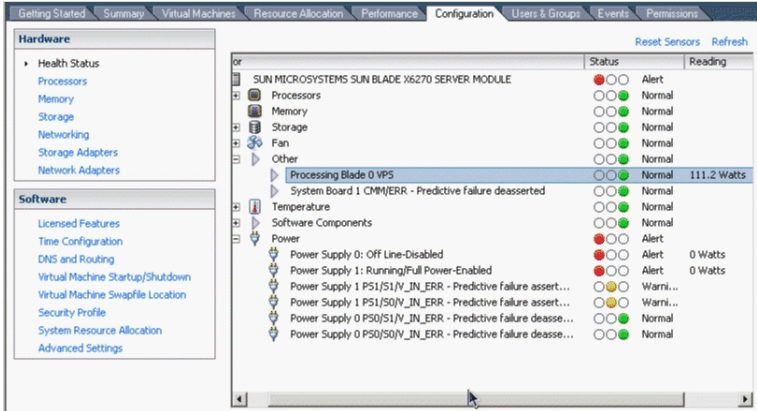
CR	説明
CR 番号 なし	SAS-1 デバイスが装着されたシャーシに挿入すると、サーバーモジュール REM がハングアップする場合があります 問題: SAS-1 Network Express Module (NEM) を搭載したシャーシ、または SAS-1 NEM と Sun Blade 6000 ディスクモジュールを搭載したシャーシにサーバーモジュールを挿入した場合、サーバーモジュールの SAS-2 RAID 拡張モジュール (REM) がハングアップすることがあります。 対処方法: この問題を防止するには、SAS-1 コンポーネント (SAS-NEM およびディスクモジュール) のファームウェアを、SAS-1 と SAS-2 の共存をサポートするファームウェアバージョンにアップグレードする必要があります。ファームウェアの入手方法やアップグレードの実行方法については、『SAS-1/SAS-2 Compatibility Upgrade Guide』(821-1800) を参照してください。

ILOM の既知の問題

CR	説明
6928567	JRE 1.6.0 U14、U15、または U16 を使用して ILOM リモートコンソールを起動できない
	問題: Web から Java Runtime Environment (JRE) の一部のビルドを使用して ILOM リモートコンソールを起動しようとした場合、「Unable to Launch the Application」というエラーが返されます。
	影響を受けるオペレーティングシステム: ILOM 3.0.9.xx、JRE 1.6.0、U14、U15、または U16 を実行しているすべてのオペレーティングシステム。
	対処方法: JRE 1.6.0 U17 以降にアップグレードしてください。
6923903	SP の復元が部分的に成功し、エラーがログに記録される
	問題: シリアルコンソールを使用している場合、シリアルコンソールに関連するプロパティを復元できないので、次のようなメッセージが表示されます。 Config restore: Unable to restore property '/SP/serial/host/commitpending' Config restore: Unable to restore property '/SP/serial/external' このようなプロパティを復元できなかったため部分的なエラーになり、その結果として部分的なエラーに関する前述のメッセージが表示されます。この動作は不具合ではありません。
	影響を受けるソフトウェア: Software Release 1.0.1
	対処方法: シリアルコンソールからログアウトして、restore を再度実行してください。

仮想マシンソフトウェアの既知の問題

CR	説明
6927196	Oracle Virtual Machine Manager 2.2 のインストールが 6 コア CPU 構成で失敗する 問題: 6 コア CPU を備えた Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュールに Oracle VM Manager 2.2 をインストールすると、インストールが失敗し、「データベースが使用できません」というメッセージが表示されて終了する場合があります。 影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア: • Oracle VM Manager 2.2 • Sun Netra X6270 M2 サーバーモジュール • Software Release 1.0.1 対処方法: この問題を解消する方法については、次の Web サイトでパッチとインストール手順を参照してください。 http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/patch

CR	説明
6779112	VMware ヘルスステータス画面により紛らわしい電源装置のステータスがレポートされる 問題: VMware Virtual Infrastructure Client の「Power (電源)」コンポーネントの「Health Status (状態診断)」画面で、サーバー電源装置がオンラインで有効化されていても、「Off-Line Disabled (オフライン無効)」状態で 0 ワットであると表示されます。 影響を受けるソフトウェア: VMware ESX 4.0 Update 1 対処方法: VMware Virtual Infrastructure クライアントの「Health Status」画面で電源の正しいステータスを表示するには、使用可能なオプションのリストから「Other」コンポーネントをクリックし、ブレード n VPS (n はブレードの番号) を表示します。  VMware ヘルスステータス画面

Oracle Solaris の既知の問題

CR	説明
6925850	Solaris の prtconf コマンドで、関連する物理スロット番号が PCIe デバイスのスロット名とともに表示されない
	問題: Solaris の prtconf コマンドを使用して PCIe デバイスのシステム構成情報を表示する際に、物理スロット番号がスロット名とともに表示されません。 たとえば、次に示す構成情報では、最初の 2 つのスロット名には関連する物理スロット番号が表示されていますが、ほかのスロット名には表示されていません。 <pre>% prtconf -pv grep slot slot-names: 00000001.65696370.00000034 physical-slot#: 00000004 slot-names: 00000001.65696370.00000031 physical-slot#: 00000001 slot-names: 00000001.746f6c53.00000035 slot-names: 00000001.746f6c53.00000032 slot-names: 00000001.746f6c53.00000036 slot-names: 00000001.746f6c53.00000033</pre>
	影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: • Oracle Solaris 10 10/09 • Software Release 1.0.1
	対処方法: この問題の対処方法はありません。この障害に対するパッチを入手できるかどうか確認してください。
6767389	Oracle Solaris OS で特定の ExpressModule のホットインサートがサポートされていない
	問題: Oracle Solaris 10 10/09 を使用している場合に、次の ExpressModule をホットインサートできません。 • Sun Quad Gigabit Ethernet モジュール (X7284A-Z)
	影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: • Oracle Solaris 10 10/09 • Software Release 1.0.1
	対処方法: 関係するモジュールを挿入し、ExpressModule が認識されるようにシステムを再起動します。

Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の問題

CR	説明
6914173	pciehp ホットプラグデフォルトドライバが SLES10 SP3 でサポートされていない
	問題: SLES10 SP3 は、PCI Express のルートポートに対する割り込みを無効にしています。その結果、デフォルトドライバオプションを使用すると、pciehp ホットプラグが正しく機能しません。ホットプラグアクションを試みた場合は、USB デバイスが意図せずに無効になる可能性があります。
	影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: • SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 (SLES10 SP3) • Software Release 1.0.1
	対処方法: 次のパラメータで pciehp ドライバをロードする必要があります。 pciehp_poll_mode=1 例: modprobe pciehp pciehp_poll_mode=1
6915768	システムの再起動中にカーネルパニックが発生する可能性がある
	問題: システムのウォームリブート中に、カーネルパニック __cpufreq_governor が断続的に発生する場合があります。
	影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: • Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4 • Red Hat Linux (RHEL) 5.4 • Software Release 1.0
	対処方法: この問題を解決するためのパッチが発行されています。次の URL からパッチをダウンロードできます。 https://bugzilla.redhat.com/attachment.cgi?id=336296&action=diff

Windows の既知の問題

CR	説明
6914898	Windows Server 2008 SP2 および R2 64 ビットでホットプラグの再挿入が失敗し、コード 35 のエラーが発生する
	問題: Windows Server 2008 SP2 および 2008 R2 では、特定の ExpressModule のホットインサートが現時点ではサポートされていません。次の ExpressModule をホットインサートすることはできません。 • SG-XPCIEFCGBE-8Q-Z – Sun StorageTek Dual 8Gb FC Dual GbE HBA、QLogic • X7284A-Z – Sun Quad GbE Express Module
	影響を受けるオペレーティングシステム: • Windows Server 2008 Service Pack 2 (64 ビット) • Windows Server 2008 R2
	対処方法: 関係するモジュールを挿入してシステムを再起動すると、モジュールが認識されます。
6879304	ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される
	問題: ILOM Power Management 機能で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムによって、プロセッサが制限されていることをユーザーに知らせる警告メッセージがシステムイベントログに生成されます。イベントの例: The Speed of Processor xx in group x is being limited by system firmware. The processor has been in this reduced performance state for xxxx seconds since last report.
	影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア: • Power Management をサポートしているすべての Sun サーバー • Windows Server 2008 R2 • Software Release 1.0.1
	対処方法: 何も必要ありません。これらは予期されるイベントであり、問題を示すものではありません。